



社台スタリオンステーション協賛

第54回 一條記念みちのく大賞典 (M1) (クリソベル賞)

水沢競馬場／3歳以上OP・ダート2000m

6月21日 (日) 第11競走 18:15発走

岩手競馬のシーズン前半戦総決算。歴代の勝ち馬欄にはあのメイセイオペラをはじめエンパイアペガサスやトニージェント、さらにはトウケイニセイ・モリユウプリンス、スイフトセイダイ・グレートホープといったそれぞれが一時代を築き、そして岩手競馬史にその名を刻んだ馬たちの名が連なります。過去に連覇を成し遂げたのはスリーパレード (7回・8回)、スイフトセイダイ (18回・19回)、グレートホープ (19回※同着優勝・20回)、モリユウプリンス (22回・23回)、メイセイオペラ (26回～28回※3連覇)、トニージェント (32回・33回)、エンパイアペガサス (45回・46回) の7頭。今年はリケアカブチーノが連覇に挑みます。

■プリンスミノル(牡7 水沢・畠山信一厩舎)



岩手に移籍してここまで3戦、前走の青葉特別では3着に終わったものの道中の立ち回りはスムーズなものを見せていた点を評価したい。JRA時代は例えば一昨年は4戦、昨年も3戦のみというキャリアだったが本来は叩き良化型なのかもしれない。そのJRA時代、OP級のリステッドでも好走していた事を思えばもうひと押しほしいのは正直な所だろう。ブリンカー着用での変化に注目してみたい。

距離に関しては心配していないが、今までの競馬を見ていると肝心なところでの瞬発力がもう少しほしい。ブリンカーを付けてみるのでその効果に期待。(畠山信一調教師)

■サクラトップキッド(牡5 水沢・伊藤和忍厩舎)



昨秋の白山大賞典から4月の川崎記念まで4度の遠征を重ねてきた。その戦いは決して楽なものではなかったものの昨冬の北上川大賞典・桐花賞制覇に繋がったし、例えばあすなろ賞でも、結果は昨年と同じ3着だったが、まさしくみちのく大賞典の前哨戦と言える強力メンバーの中で互角に渡りあっていたところに成果が現れていると言えるだろう。とすれば、ここでも昨年以上の結果を期待してみても良いのでは。現時点の到達点を量る一戦。

3月から戦ってきましたが順調に使われてきて動きが良いですし気合いも乗っている感じ。強いメンバーとやれるのは楽しみです。良い結果を出したいと思っています。(伊藤和忍調教師)

■リトルサムシング(牡4 水沢・千葉幸喜厩舎)



金沢時代は現地の3歳クラシック路線で活躍した本馬だが、現時点ではマイルか、あるいはより短い距離に適性がありそう。それを判断するべく挑む予定だった早池峰賞が出走取消となってしまったのは惜しかった。今回、自身三度の2000mに挑むのはこの距離でこれまでとは違う競馬をしてみようという狙いがあるようだ。金沢・サラブレッド大賞典では2000mを逃げ切って勝っているしその後も先行競馬をしてきた本馬が、新たな境地を拓く為の挑戦になる。

前回取り消した影響はありません。現状はもっと短い距離の方が良さそうですが、これまでとは違った競馬を試してみたいのでここに挑戦してみます。(千葉幸喜調教師)

■ヒロシクン(セ7 水沢・佐藤雅彦厩舎)



1分37秒8。2007年から破られなかった水沢マイルの記録を更新、それも59kgのハンデを背負って。馬場状態も味方したとは言え本馬のスピード性能を改めて見せつけられた前走だった。シアンモア記念から直行だった昨年とは異なる臨戦過程になったが、それはこれまでとは違うパターンを試す意味もあったようだ。「今年は相手が強力。他の馬がどう出てくるか？ですが、うちの馬がやる競馬は“一本”だから」と佐藤雅彦師。徹底先行で目指すは昨年の雪辱だ。

昨年とは違うローテーションで来ましたが状態は変わりないですね。昨年などより相手が揃っていますが、自分の競馬に徹してどこまでやれるかですね。(佐藤雅彦調教師)

■キタノリュウオー(牡8 水沢・畠山信一厩舎)



岩手ではこれが3戦目。いや、一昨年の南部杯にJRA所属として出走しており実質岩手4戦目だが水沢での実戦は初めてになる。その南部杯では7着だったが岩手勢には大きく先着していたしJRA時代にはダート中距離のOP特別やリステッドで何度も好走。岩手に来る前に3戦した南関東でも重賞で6着があって、その戦績を見る限りここで遜色は感じない。一方で7番人気や6番人気から勝っているように掴みきれないところがあるのも確か。備えた力量を完全発揮なら…だが、果たして。

負けてはいるが良い脚を使ったりする。その使い所次第でしょうが、成績を見るとややムラツ気もありそう。気持ちよく走ってどこまで食い込めるか。(畠山信一調教師)

■カナオールウェイズ(セ6 水沢・菅原勲厩舎)



昨年の秋頃はB1級で勝ち負けという位置にいたが年末に向けて急上昇・急成長。今や古馬重賞戦線の中でも主役の一角を占めるまでになった。今季の勝ち星こそ3月の白嶺賞のみに留まっているが、本馬の力量がその程度ではないことは自他ともに認めるところ。ダートではマイル前後の良績が目につくが、昨年の桐花賞では僅差3着、それもヒロシクンを徹底マークしつつ守り切っていたのだから距離も対応できると見るのが自然だろう。着順の数字だけで単純に優劣を付けてはいけな存在だ。

春先から実戦を使っているなのでこの間は少し間隔を開ける形。毎回がんばって走ってくれる馬ですし枠順も特に問わないでしょう。(菅原勲調教師)

■ライアン(牡7 水沢・佐藤浩一厩舎)



一昨年の桐花賞での鮮やかな勝ちっぷりが未だに印象深い本馬。その時が6番人気からの勝利だった事もあって“意外性のある馬”というイメージにもなっているが、これは以前も触れた点だが本馬はこれで思った以上に堅実かつ強敵相手にもしっかりと食い下がってくる…という点は、この馬の戦いを考える上で必ず念頭に置いておくべき部分だ。まして今回は得意の雨馬場にもなりそう。好走して不思議無し、それが勝利という結果であっても、決して意外ではない。

これまでではわりと馬なりの追い切りでしたが、今回はラスト1ハロンをハミをかけて時計を出してみた。その動きが良かったので何か変化がないかと期待しています。(佐藤浩一調教師)

■レールガン(牡9 水沢・佐藤浩一厩舎)



競走馬に対して“名バイプレーヤー”というのは失礼かもしれない。しかし本馬に対しては親しみを込めつつそういう表現をしてみたいものだ。北上川大賞典に5回、桐花賞には4回。みちのく大賞典には2回挑戦など古馬重賞に何度も顔を見せ、勝利こそないものの何度も掲示板に食い込んできた。それは8歳・9歳と年を重ねても変わりなく、前走のあすなる賞ではあの強豪達の中で5着に食い込んでいる。なんとあっぱれ！終わってみればここでも上位に…。この馬にならそんな期待をかけてみてもいいのではないか。

まもなく100戦に届く馬だけでも毎回よく頑張っている。他力本願な面があるし水沢はどうしても展開が向きづらいが、何かチャンスがあればと思っていますよ。（佐藤浩一調教師）

■リケアカプチャーノ(セ4 水沢・菅原勲厩舎)



昨年のみちのく大賞典では史上初の3歳馬による制覇を達成して早々と歴史の中にその名を刻み込んだ。その後の勝ち星は秋のトパーズカップのみとはいえ、北上川大賞典、桐花賞と古馬重賞戦線での存在感は十分に示してきている。この春は去勢の影響か体重減でのスタートになり、初戦の赤松杯では4着と久しぶりに苦戦した格好にもなったが、ひと叩きされた前走ではこの馬らしいしぶとさで2着。これならもう大丈夫だろう。連覇へ向けて前進あるのみ。

相手も強くなってきているからこの馬自身ももっと調子を上げていかないと…という部分はあるが、調子は良くなってきたので楽しみにしています。（菅原勲調教師）

■ラッキードリーム(牡8 水沢・板垣吉則厩舎)



門別の3歳三冠馬というだけでなくその後も各地で重賞タイトルを積み上げてきた本馬が岩手転入という報には驚いた。そして転入初戦のあすなる賞、結果僅差の勝利ではあったが、鞍上も苦しいと感じた位置から巻き返してみせたその底力にはまた驚かされた。本馬にとっては課題が多かった前走をクリアして、“本番”に向けての視界がクリアになったのも間違いない。右回り・中長距離はもはや戦い慣れた舞台といえるし輸送もない地元コース。あっさり戴冠のシーンまで。

前走を一度叩かれたことで毛艶も良くなってきた。汗もしっかりかくようになって体調も悪くないと思いますね。状態に関しては何の心配もしていません。（板垣吉則調教師）